

趣 旨 書

特定非営利活動法人
胡麻地域振興会設立準備会

代表 芦田 昌徳

町村合併が全国的に進行する今日、「地域」の再編成が進もうとしています。

当、胡麻地域は人口政策の結果、新興住宅地の開発によって、かろうじて人口減少は免れているものの生活過疎（コミュニティ・利便性等の劣化）、具体的には繁栄会商店の休業・廃業等が進んでいます。農林業の衰退・変貌と経済圏の拡大。遠隔なる就労地等により、自然立地に基づく地域に対する意識が低下するとともに、地域社会維持が困難な側面も散見される今日この頃です。旧来の地域の間人間関係のみではこの地域社会を維持することが困難になり、新たなる地域の「つきあい」（コミュニティ）とそれを基礎とする地域の「よさ」（アメニテイ）の追求が課題となると考える次第です。

JR胡麻駅駅舎の「コミュニティセンター」と名指された建造物はこの場所を中心に5年猶予の間、農林業の振興と地域コミュニティを目的とした「朝市」や小さな文化イベントに利用されてきました。それらの経験から「コミュニティセンター」を胡麻地域の中核拠点として位置づけ、活用することが地域の「つきあい」（コミュニティ）と「よさ」（アメニテイ）を進展させる絶好の方法ではないかと考える次第です。地域振興を目的とする特定非営利活動法人「胡麻地域振興会」を設立し「コミュニティセンター」を舞台として胡麻地域住民が活躍する体制を整えることは広く胡麻地域住民にとって有意義なことであると考えます。採算の合う、合わぬと地域に必要なものとは必ずしも一致しない現実の中、地域住民の協力と運営の工夫により推進することで「つきあい」（コミュニティ）と「よさ」（アメニテイ）の実現の一翼を特定非営利活動法人胡麻地域振興会設立にて目指すところです。